家族全員で、非常持ち出し袋の中を確認中

家族で話し合う

あなたとあなたの大切な人を大規模災害から守るために
まず、すべきことがある
「備えること」
そして家族全員で「話し合ってみる」こと
万一のために、今できることを考えよう
「家族防災会議」を始めた
横山さん一家(徳山)を取材した

家族全員がそろった11月のある日、横山勝次さん一家では、「家族防災会議」を開いた。東海地震などの発生時、家族全員が慌てないように、今からできる家庭内の防災対策や、災害発生時の家族の行動などを話し合った。

8月11日「地震の記憶」

父　早朝5時という時間帯だったので、妻が台所で朝ご飯の支度をしていた以外は、みんな寝ていました。突然の大きな揺れに驚き、とっさに子どもの上に覆いかぶさりました。

母　わたしは朝食の支度をしていました。すぐに料理をやめて火を止め、テレビをつけました。わりと早く地震の情報が流れたように記憶しています。

祖母　わたしも、あまり突然のことに驚いて、布団の上に座っていることしかできませんでしたね。

父　当然のことですが、地震が来るなんて思いもしませんから、とにかくびっくりしました。誰もケガをしなくて本当に良かった。今、こうして話している瞬間にも「地震が来るかも」と、ふと考えてしまいますね。

備蓄しているもの

母　非常持ち出し袋に食料や飲料水、懐中電灯などを詰めたものを2袋用意し、玄関先などに置いてあります。でも食料は、家族が3日間過ごせる量には全然足りませんね。それに期限が切れている缶詰もありました。たまには袋を開けて、中身を確認しないとダメみたいですね。

父　袋は、1カ所にまとめておいても意味はないですから、居間の隅と玄関先に置いています。必ずどっちかは持ち出せるようにしています。

祖母　水は一番大事ですから、ビニールのタンクを購入して置いてあります。あと何より大事なのは常備薬。わたしは少し頭痛の気があるので、その薬は必ず用意しています。安心感が違いますからね。

母　拡立（ひろたつ）（赤ちゃん）がいますから、おむつやミルク、ほ乳瓶などは絶対に必要。でも結構かさばるんですよね。

子　チョコレートも。

母　子どもたちを安心させるためにも、お菓子なんかも入れておいくといいですよね。糖分補給にもなるし。

父　年に1回くらい家族でキャンプに行くんですが、キャンプ用品は非常時に役立ちそうですよね。テントや寝袋など、きっと重宝しますよ。あと子ども用に、ヘルメットと防災ずきんを備えています。親の分はないんですけどね…。

家庭内の防災対策

母　テレビの台の上には突っ張り棒をかませ、倒れてこないようにしています。あと台所の食器棚のとびらには、マジックテープで開かないように細工をしています。大きな揺れの中で、どれくらい効果があるかは分かりませんが…。食器棚自体の転倒防止はしていませんし。

父　できれば、電子ピアノとか食器棚、本棚などは、壁に穴を開けてL型金具で固定すれば一番安全なんでしょうけど、うちは社宅なんですね。壁に穴を開けていいか、会社と相談してみないと…。

母　穴を開けない転倒防止器具でいいから、寝室にあるおもちゃの棚と電子ピアノだけは補強しておきたいですね。

非常時の行動

父　子どもたちには、地震が発生したら、まず頭を守るように教えています。身近な物、たとえば図鑑みたいな本でもいいから、それで頭をかばいなさいと話しています。

祖母　風呂にはできるだけ水をためておくようにしています。給水車はあちこち行くでしょうから、この近くに来るのがいつになるか分かりませんしね。

母　揺れが収まったあとは、火の元の確認や、テレビやラジオで情報を聞く、容器に水をためるなど、やることがたくさん。絶対に混乱しますね。

父　家族内であらかじめ、役割分担をしておきたいですね。例えば子どもを探しに行く場合、両親とも家を空けてしまったら、お互い行き違いになってしまいます。どちらかは家に残り、もう一人が探しに行くなど、これを機に決めておきたいと思います。

また、家族が別々の場所にいることも考えられますから、それぞれの避難場所を把握しておくことも大切ですね。

父　今回家族で話し合ってみて、あらためて家庭で防災対策をする必要性を感じました。家族の間で情報を共有しておくことも大事です。万一の際、慌てるなと言っても無理ですから、今からできることをやっておこうと思います。まずは家族で、足りない防災用品を買い足しに行きます。

横山勝次さんご一家　**父**：勝次（かつじ）さん、**母**：羊子（ようこ）さん、**祖母**：すずさん、
子：祐大（ゆうた）君（9歳）、拓生（たくお）君（6歳）、宙弘（ひろひろ）君（3歳）、拡立（ひろたつ）君（0歳）の7人家族

1寝室に置いてある懐中電灯の電池が切れていた。これを機に、子どもと一緒に交換　2すずさんが見せてくれた水タンク　3天井部に突っ張り棒をかませてあるテレビの台　4子どもが通う小学校が避難場所　5寝室の棚にはおもちゃがたくさん置いてあり危ない

設置しましたか？ 住宅用火災警報器

火災発生時、住人に避難を促す住宅用火災警報器。今年5月末、すべての住宅に設置が義務付けられた。火災で何より怖いのは煙に巻かれること。逃げ遅れを防ぐためにも、住宅用火災警報器の設置を進めよう。今回お邪魔した横山さんのお宅にも、しっかり設置してありました。